いて，各自にとっての独自なアレルゲンに関する可能性に適応した表示を完全に行うことはおそらく不可能である．今，食物アレルギーは子どもが中心であるが，花粉症と同じように大人になって新たに発症することも多いようである．別の言い方をすれば，国民の誰もが発症のリスクと可能性を少しずつ負っているのであり，人の集団では特別な人々だけが罹患するわけではないことを，皆が理解しておきたい．

そうなると食物アレルギー表示は，社会の少数派の利益のための特殊な表示ではなくなる．誰もが当事者となる可能性がある中で，表示を見る側に対しても，教育の一環として食品表示やアレルギー表示が利用されることが望ましいし，表示する側も信頼を裏切ることなく，自信を持った定量的な表示まで考えていきたいものである．

公衆衛生 書評

「国際保健政策からみた中国―政策実施の現場から」（九州大学出版会）

評者　相田　潤　東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野

大谷順子著：国際保健政策からみた中国―政策実施の現場から．九州大学出版会（TEL 092-641-0515），1,200円＋税

経済発展の目覚ましい隣国，中国における保健医療の現状と，そこで活動を続けるWHO西太平洋地域事務局を中心とした保健機関の活動が，筆者の幅広い国際機関での活動経験を通して語られる．本書の良いところは，貴重な保健医療関連のデータや，臨場感あふれる国際機関の現場の描写だけではなく，公衆衛生を学ばせてくれるところにもあろう．

中国では，都市部と農村部の経済格差は拡大を続けている．都市で子どもの肥満や栄養過剰が見られる一方で，農村では慢性栄養不良と低体重が問題となる．格差の拡大は，農村から仕事を求めて都市へ移動する国内移民労働者を生み出す．この2億人にも上る流動人口は，農村で生まれたために「都市籍」を持たず，医療や教育を含むあらゆる社会保障を受けることができない．さらに，グローバル化による社会の変化が追い討ちをかけている．今や中国の死亡原因は心疾患・がんをはじめとした慢性疾患によるものが大部分を占めるという．貧困と結びつく結核，流動人口の移動とともに伝播するエイズ，都市部を中心に増加する生活習慣病と，こうした現状は公衆衛生の歴史を再現しているように映る．

産業革命時の英国では，工場での労働が可能となった都市部に人口の流入が生じ，経済格差が拡大し，貧困層から結核などの疾病が発生することが多かった．これを都市構造，社会そのものの病として対策を考えることから，公衆衛生が発展した．現在では非感染症においても，健康の社会的決定要因が注目されている．中国では，まさに社会構造が病を生み出している状況がわかりやすい．

本書の第一部では概観として，経済成長と格差の問題や，人口爆発を押さえこむ中国の人口学的特徴について述べている．第二部では各論としてSARSなどの感染症，地域や生活水準により様々な特徴を示す生活習慣病，特徴的な自殺と精神保健，死因の高位をしめる傷害，水や空気に関する環境の各章から成る．特にSARSの記載は国際機関の活動の内幕まで詳しく書かれている．当初は及び腰だった中国政府が国際機関と協力しながら保健衛生システムを構築していく様子は，経済上の思惑があったとはいえ，国際保健政策の上で希望を抱くものであろう．第三部では，都市部と農村部で異なる保健医療制度の紹介と，中国に関係する国際機関について紹介されている．アルマ・アタ宣言でプライマリヘルスケアのモデルにしていた農村部の保健医療システムが，社会構造の変化に伴い崩壊していった状況や，WTOへの加盟により生じうる変化についても触れられている．

WHOでの活躍だけでなく，日本人初の保健専門家として世界銀行に入行し，また米国のCDCや日本の結核研究所での経験も持つ筆者ならではの視点は，幅広い人々への示唆に富むものであろう．また，国際保健に携わる専門家の方々のコラムも充実しており，興味深い．中国について深く知ると同時に，国際保健と公衆衛生について目を開かせてくれる一冊である．

いのか」と伝えました．専務は「健康管理センターに正職がいないのは，組織の見直し過程で何らかの事情があったからと思うが，社の方針というわけではなく，ご指摘のあった点は，これからの検討課題として生かしていきたい」と答えてくれました．

終わりに一言

正直に明かせば，これまで，私の中に産業(民間企業)とパブリックヘルス(公衆衛生)という関係ではあまりいい印象を持っていませんでした．それは，戦後の驚異的な経済復興，経済成長の裏で進んだ自然破壊や，人間破壊の元凶に，わが国の産業全体の影響を強く感じてきたからです．拙著『保健婦　魂の反攻―「公衆衛生」生命のラインが危ない』(家の光協会)の扉に記した「人間を不健康にして初めて健康な経済が可能になるという事態には終止符を打たなければならない」(エーリッヒ・フロム『生きるということ』)もそうした思想の表れでした．しかし，企業の経営戦略も「健康な経済」の利潤競争に狂奔しただけの時代から，「人間の生命・健康」との共生というソフト・ランディングを目指す企業も生まれていることに，かすかな希望を見つけた気がします．そういう企業文化の中心に産業保健のPHNたちの存在が，1日も早く「あってもいい」から，「なくてはならない」存在になってほしいと思いました．(了)

九大アジア叢書 8
国際保健政策からみた中国
政策実施の現場から
大谷順子 著
定価 1,260円 新書判 236頁
目覚ましい経済発展や2008年に控えたオリンピック開催で世界の注目を受ける一方、SARSや鳥インフルエンザの流行でも関心を集める中国。WHO職員として政策の実施に取組んだ著者が、人口、感染症や生活習慣病対策、医療制度など、国際保健分野からみた中国を描く。

長寿の要因 沖縄社会のライフスタイルと疾病
柊山幸志郎 著　定価 8,400円 B5判 406頁
長寿要因に関する医学・社会学的側面からの研究成果

男性百歳の研究
秋坂真史 編著　定価 6,300円 B5判 304頁
長寿県・沖縄での男性百歳のデータに基づく実証研究

疾病から文明論へ
高橋 宏 著　定価 1,890円 四六判 200頁
疾病という観点から今日の文化のあり方を考える

九州大学出版会
http://www1.ocn.ne.jp/~kup/
e-mail: salesdep@mocha.ocn.ne.jp
〈定価は税込〉
TEL: 092-641-0515
Fax: 092-641-0172

公衆衛生 第72巻 第3号 2008年3月15日発行（毎月1回15日発行）1946年12月17日第3種郵便物認可 ISSN 0368−5187 Koshu Eisei

公衆衛生

The Journal Of Public Health Practice

Vol.72 No.3
2008
3
March

特集

アレルギー対策
花粉症・食物アレルギー・アトピー等への対応

九州大学
簡略整理
九州大学蔵書

視点●アレルギーは何故増えたか？／石坂公成

特別寄稿●アメリカとヨーロッパ，それぞれの豊かさ／橘木俊詔

特別記事●看取りの文化，地域から再構築を／岡部 健・三井ひろみ

医学書院